札幌発が海外進出

国産シェルター換気装置 〝台湾有事の追い風〟

不安定な世界情勢から国際的に地下シェルターの需要が高まっている。札幌の企業が唯一、国産のシェルター用換気装置を製造しており、台湾から海外市場に挑戦する。

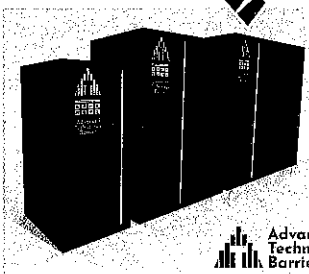


台湾の防衛・航空宇宙展示会「TADTE」に出店した「プロテクトアーツ」のブース

「台湾有事をはじめ国際情勢は不安定。そうした中で、有事への備えは避けて通れない。日本の技術力は信頼度が高いので、需要はあると思っています。あくまでも防衛の観点ですが、北海道の中小企業として、地下シェルター関連産業の海外進出の先駆者になりたい」

こう語るのは、「プロテクトアーツ」社長の小熊正輝社長（カギカッコ内、以下全て小熊氏）。同社は空調関連部材メーカー「ヤブシタ」のグループ会社だ。

プロテクトアーツは、国産初の地下シェルター用換気装置「ATバリア」を開発。名古屋大学の技術協力を仰ぎ、2025年4月に発売した。特殊なフィルターで放射性物質やウイルスの除去が可能だ。



地下シェルター用換気装置「ATバリア」

同社は海外進出の足がかりとして、同9月18日から20日まで台湾で開催された「TADTE」に日本企業として初出店。同イベントはアジア最大級の防衛・航空宇宙展示会だ。会場には1500ブース490社が参加し、3日間の来場者数は約4万人だった。

「出店は自ら応募し、台湾での市場調査を兼ねたものでしたが、台湾の総統である頼清徳氏が視察に訪れるなど、関心の深さに驚きました。台湾軍のブースもあり、戦車を展示するなど、防衛力の高さをアピールしていました」

このほかのブースでは、ライフル、防弾チョッキ、防護服、毒ガス検知器などが展示されていたという。

「開催日は、高市早苗首相の〝台湾有事発言〟の前ではありましたが、そもそも中国と台湾の緊張関係が続いていたので、台湾人の防衛意識の高さを感じました。地下シェルターも特別なものという認識はないようでした。親日家が多いということもありましたが、当社の換気装置も関心を寄せていただきました。イベント後には商談のほか、販売の代理店になりたい旨の連絡などを頂戴しました」

11月下旬、同社はウクライナに隣接するポーランドの防衛イベントにも出店した。

国の国土強靱化計画を推進する「レジリエンスジャパン推進協議会」というものがある。この事務局を「日本核シェルター協会」が担っており、同社も加盟。同社は今回の防衛イベント参加の情報を同協会にフィードバックするという。

大手ゼネコンがシェルター関連部門を立ち上げるなど、国内市場の需要は高まりつつあるというが、現時点ではその規模は小さい。

「シェルター関連の当社製品も売れ行きはまだ低調ではあります。そのため、まずは海外市場に注力します」

同社は26年春以降、世界初となる一酸化炭素を除去できる新装置を発売予定だ。

「画期的なもので、特許も取得します。地下シェルターのみならず、防災・消防面にも寄与できます。海外メーカーとの差別化が図れ、世界で通用する製品だと感じています」（竹内）